

令和 6 年 5 月 23 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K17969

研究課題名（和文）山岳信仰の聖地におけるロッククライミングのゲレンデ整備に関する基礎研究

研究課題名（英文）Basic research on the area development of rock climbing in sacred places of mountain worship

研究代表者

天田 顕徳（AMADA, Akinori）

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：10866461

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主な成果は以下3点にまとめられる。1.ロッククライミングや、その背景にある近代アルピニズムに対する伝統的な山岳信仰の担い手たちの向き合い方や、両者の関係の一端に光を当てることができた。2.山岳信仰の観光資源化を、「担い手たちの目線」から共に議論することができた。3.「観光」と「信仰」を活用したまちづくりのあり方や、ロッククライミングとも地続きである「アドベンチャー・ツーリズム」や「トランスフォーマティブ・トラベル」に山岳信仰にまつわる文化を利活用する可能性について、検討・分析をおこなうことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は特に山岳信仰と関わる宗教文化・伝統文化の保護と、持続・発展可能な観光開発を両立するための基礎資料としての知見を提供するものである。国土の7割が山地の日本において、山岳信仰と関わりのない地域はないと考えられており、本研究で蓄積した民俗誌的データは、日本の文化観光に関わる主体にとって極めて重要な示唆をもたらす社会的意義の大きいものであると言える。

研究成果の概要（英文）：The three main results of this research are as follows. 1) This study revealed the perceptions of religious people toward rock climbing and modern alpinism. 2) This study considered the possibility of using mountain beliefs for tourism from the standpoint of religious people. 3) This study examined how tourism and religious beliefs could be utilized in town planning.

研究分野：観光学

キーワード：山岳信仰 文化観光 アドベンチャー・ツーリズム 宗教 ツーリズム 聖地 まちづくり コンフリクト

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

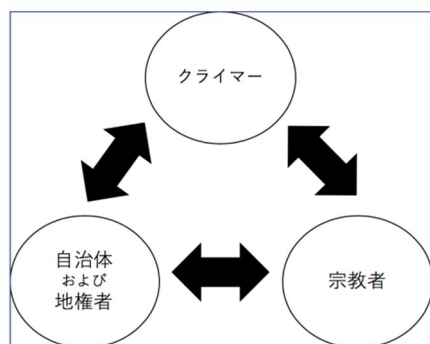
### 1. 研究開始当初の背景

2020年に開催された東京オリンピックにおいて「スポーツクライミング」が正式種目に採用されたこともあって、ロッククライミングの人気の高まっており、現在、様々な地域で「岩場」の観光資源化が期待されている。一方、ロッククライミングの対象となるような「巨岩」は信仰の対象にもなっていることが多く、競技人口が増えるにつれて「岩を登る人々」と「岩を信仰する人々」との対立が増加している。それらは「アクセス問題」と呼ばれ、観光開発を停滞・中断させる要因となっている。岩場の観光開発に反対する人々と、開発を推進する人々の主張を整理するとともに、観光開発における両者の交渉、調整過程を明らかにすることで、宗教文化・伝統文化の保護と、持続・発展可能な観光開発を両立する方途の提示をすることが求められている。

### 2. 研究の目的

本研究が注目したアクセス問題とは、岩場へのアクセスの権利を巡る岩の管理者や地権者とクライマーの摩擦・対立を指す言葉である。しばしばクライマーが信仰対象や天然記念物の岩を「登攀の対象」と見做すことで問題が起こっている。本研究では、特に信仰が関わって起こるアクセス問題を取り上げ、関係者の主張を整理するとともに、信仰の現場でゲレンデ開発が行われた国内外の事例を精査し、両者の交渉と意見の調整過程を明らかにする。本作業を通じて宗教文化・伝統文化の保護と、持続可能な観光開発を両立するための基礎資料を提示することが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法



以上の目的を達成するために、本研究では、左図に示したように、ロッククライミングのゲレンデ整備に関わる3つのアクターを、自治体および地権者/クライマー/宗教者と整理し、アクター間の相互行為に注目しながらゲレンデ整備の交渉・調整過程のモデル化すべく、民族誌的なフィールドワークを実施した。

なお、本研究の特徴は、研究のバックグラウンドに山岳信仰研究があるという点にある。従来の観光研究では、日本の伝統的な寺社仏閣や聖地などに大きな関心が払われる一方で、宗教学や宗教研究の知見を観光研究に活かした例は多くない。筆者はこれまで、世界遺産に登録されている奈良県の吉野と和歌山県の熊野や山形県の

出羽三山をフィールドに、現代における山岳信仰の研究をおこなってきた。また山伏の修行にも実践者として参加しており、山岳信仰と関わる教団関係者とも一定の信頼関係を築いている。こうした経験を活かし、宗教文化・伝統文化の保護と持続可能な観光開発のための方途を、特に宗教者側のロジックに注意向けながら、検討した点に特徴がある。

### 4. 研究成果

#### (1) 本研究の成果

本研究の主な成果は以下3点にまとめられる。

#### 1. ロッククライミングや、その背景にある近代アルピニズムに対する伝統的な山岳信仰の担い手たちの向き合い方や、両者の関係の一端に光を当てることができた。

山と溪谷社が1958年に創刊した『岩と雪』および、後継誌『ROCK & SNOW』のバックナンバーで報じられたアクセス問題の紙面を資料とし、アクセス問題を抱えた/抱える地域の関係者に質的な調査を実施した(問題の性質に鑑み、具体的な地域名は伏せる)。新型コロナウイルス感染症の流行の余波により当初対面でのインタビューに困難が伴ったことも相まって、研究期間内ではゲレンデ開発に向けた双方の思いや具体的なフィールドデータを公開することに関係者からの同意を得られなかったものの、クライマーの山への向き合い方と宗教者の山への向き合い方の差異、並びに、双方のロッククライミングやその背景にある近代アルピニズムに対する向き合い方の違いに光を当てることができた。特に宗教者側の思いの一端については主に以下において報告した。

#### (論文)

- ・天田顕徳 2021「現代修験道の素描：まつわるもの と そのもの の関係に注目して」『現代思想(総特集 陰陽道・修験道を考える)』青土社、pp.315-327(招待あり)

#### (口頭発表)

- ・天田顕徳 2021「危機の儀礼と儀礼の危機」北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 学内共同プロジェクト「危機のメディア研究」研究会(2021年9月2日、於：北海道大学)

・天田顕徳 2023「スマホと山伏」雲ノ平山荘 KumoLab(2023年9月21日、於・雲ノ平山荘)  
(招待あり)

2. 山岳信仰の観光資源化を、「担い手たちの目線」から共に議論することができた。  
「アクセス問題」と関わる文化資源利用については、拙速な情報公開を望まないステークホルダーが多かった一方で、本研究がアクセス問題を事例として取り組もうとした「宗教文化・伝統文化の保護と、持続可能な観光開発を両立」については、インタビューを重ねるうちに、積極的にそれに取り組みたいと考える地権者や宗教者、行政との連携体制が構築できた。これについては、当初予期しなかった事象であり、今後、山岳信仰や山岳霊場の観光資源化を考えるための大きな一歩となった。  
この点と特に関連する成果は以下の通りである。

(口頭発表)

- ・天田顕徳「「信仰」と「振興」：二つのシンクウ考える」鶴岡市手向地区価値再発見勉強会(2021年10月29日、於・鶴岡市手向地区ふるさとセンター)(招待あり)
- ・天田顕徳「持続可能な地域づくりと修験道文化：出羽三山を事例に」日本山岳修験学会富士山学術大会(2022年3月6日、於・Zoom オンライン)

3. 「観光」と「信仰」を活用したまちづくりのあり方や、「アドベンチャー・ツーリズム」や「トランスフォーマティブ・トラベル」に山岳信仰にまつわる文化を利活用する可能性について、検討・分析をおこなうことができた。

研究成果上記2において述べた、研究開始当初に予期しなかった事象とも関連するが、宗教者たちのロジックや地域の歴史に耳を傾けることで、ロッククライミングとも地続きである「アドベンチャー・ツーリズム」や「トランスフォーマティブ・トラベル」に山岳信仰にまつわる文化を利活用できる可能性がある点を明らかにした。これらは特にインバウンド市場に対して訴求力を持ち、観光を通じて文化の保存と活用の好循環が生まれ得ることを指摘した。

この点に特に関わる成果は次の通りである。

(論文)

- ・天田顕徳 2022「羽黒山山伏集落の現状と山岳修行の変容 コロナ禍を通して見えてきたもの」『現代宗教』pp.93-117。(招待あり・査読あり)

(口頭発表)

- ・天田顕徳「文化観光と修験道 羽黒山を中心に」日本山岳修験学会 飯田学術大会(2022年10月22日於・飯田市鼎文化センター)
- ・Akinori AMADA, “Yamabushi Practice as “Adventure Tourism” / 「アドベンチャー・ツーリズム」としての山伏修行, Approaching Modernity in Japan’s Mountains (2023年10月14日、於・九州大学)(招待あり)
- ・天田顕徳「手向宿坊街の現状に関する一考察」日本山岳修験学会霧島学術大会(2023年11月26日、於・霧島神宮)

上記に加え、観光庁が主催した「日本遺産フェスティバル」において分委会「山岳信仰・修験の文化」～信仰の文化がつなく人・地域」をコーディネートし、伝統文化の保存と観光振興の両立をテーマに山形県、神奈川県伊勢原市、和歌山県、鳥取県三朝町の各霊山の近況と課題についてコメントを行なった(2023年11月5日)(招待あり)

以上3点の成果に基づき、本研究は宗教文化・伝統文化の保護と、持続・発展可能な観光開発を両立するための基礎資料としての知見を提供するものになったと言える。

(2) 今後の展開

本研究において蓄積された民俗誌的データは伝統文化の保存や文化資源の利活用を目指す主体にとって、極めて重要な示唆をもたらすものであると考えられる。現状公開できていないデータの公開に向けた協議を進めるとともに、一般書として研究成果を出版することも視野に入れ、研究の社会還元を目指していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 天田顕徳	4. 巻 2022
2. 論文標題 羽黒山山伏集落の現状と山岳修行の変容 コロナ禍を通して見えてきたもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代宗教	6. 最初と最後の頁 pp.93-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 天田顕徳	4. 巻 2021年5月臨時増刊号
2. 論文標題 現代修験道の素描 まつわるもの と そのもの の関係に注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 pp.315-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 4件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 存続の危機の内実 -文化観光と宿坊
3. 学会等名 「危機のメディア研究」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 文化観光と修験道 羽黒山を中心に
3. 学会等名 日本山岳修験学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 祭りに飲酒は必要かー祭りの継承と若者と酒
3. 学会等名 西日本宗教学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 宿坊インタビュー調査・調査報告
3. 学会等名 手向宿坊組合（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 持続可能な地域づくりと修験道文化-出羽三山を事例に-
3. 学会等名 日本山岳修験学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 「信仰」と「振興」：二つのシンコウ考える
3. 学会等名 鶴岡市手向地区価値再発見勉強会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akinori AMADA
2. 発表標題 Yamabushi Practice as “Adventure Tourism” / 「アドベンチャー・ツーリズム」としての山伏修行
3. 学会等名 Approaching Modernity in Japan’s Mountains (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 危機の儀礼と儀礼の危機
3. 学会等名 「危機のメディア研究」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 天田顕徳
2. 発表標題 スマホと山伏
3. 学会等名 Kumo Lab (招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

観光庁が主催した「日本遺産フェスティバル」において分會「山岳信仰・修験の文化」～信仰の文化がつなぐ人・地域」をコーディネートし、伝統文化の保存と観光振興の両立をテーマに山形県、神奈川県伊勢原市、和歌山県、鳥取県三朝町の各霊山の近況と課題についてコメントを行なった(2023年11月5日)(招待あり)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------